

普及活動情勢報告（令和6年10月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

農業の環境負荷低減の実現に向けて取り組もう！！ ～みどり認定申請支援～



書類作成支援の様子

9月24日～27日、10月16日～17日にかけて、安芸市のナス生産者を対象にみどり認定申請に向けた申請書作成支援を実施しました。

当日はJAと協力し、生産者の過去の営農状況の聞き取り、振り返り、そして将来的に環境負荷低減を実現するための施肥設計や農薬の見直し等を生産者と一緒になって考え、申請書の作成をサポートしました。

生産者からは、「過去の施肥状況を詳しく振り返って、肥料が過剰であった」や「環境負荷を減らすにはどこを見直したらよいか」等の声があり、自身の営農について新たな気づきを得られるきっかけになったと考えられます。

引き続き、農業改良普及課では、JA、生産者と一緒になってみどり認定取得に向けて取り組んでいきます。

今の農業の魅力を知って！ ～安田中学校出前授業～



ナスのハウス栽培現場を見学する生徒と普及指導員

10月10日、安田町安田中学校で全学年約30名の生徒を対象に、安田町の農業についての出前授業を行いました。JA営農指導員と協力し、仕事としての農業の魅力について紹介した他、より深く農業を学ぶ場として農業高校や農業大学校を紹介しました。

加えて中芸集出荷場と、その隣のハウスに移動し、ナスが収穫されて出荷に至る過程を学びました。生徒からは「将来農業をやりたいがどんな勉強をしたらいいか」「ハウスを建てるのにどのくらいお金がかかるのか」といった質問がありました。

今後も農業改良普及課は、管内の中高生に対して農業分野の出前授業を通じて、生業としての農業の魅力向上に取り組めます。

WCS用稲の収穫、過去最高の収量達成！ ～農事組合法人庄毛ファーム～



収穫を見守る生産者

10月10日、室戸市の農事組合法人庄毛ファームは基幹品目であるWCS用稲（2.5ha）を収穫し、10aあたり約7.4ロールと過去7年間で最高の収量となりました。

農業改良普及課室戸支所は、主に問題となっていた難防除雑草ヒレタゴボウ対策に農薬メーカーと連携して中・後期除草剤試験の実施を、また今年から新たに始めた基盤整備地には追肥を指導しました。

生産者からは「除草剤、水管理、肥培管理、すべてが上手く行って良かった！」と目標収量6ロール/10aを突破したことで満足そうな様子で語っていました。

室戸支所では、更なるWCS用稲の生産性向上に向けて支援していきます。

担い手の確保・育成に向けて ～安芸市指導農業士意見交換会～



意見交換する指導農業士と
普及指導員等

10月11日、産地主体で担い手の確保・育成に取り組み、今後も産地を維持・拡大していくことを目指して、安芸市担い手支援協議会が、安芸市指導農業士意見交換会を開催し、指導農業士9名ほか関係機関等12名が参加しました。

農業改良普及課からは産地提案書改訂の取組や、今年度から実施している研修生受け入れ先検討会等について情報提供を行いました。

指導農業士からは「就農10年目を見据えた指導・育成が必要」、「ユズで新規就農者を受け入れていくためには何が必要か」といった発言があるなど、課題の共有や解決策の検討につながる意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も地域の指導農業士と連携し、効果的な担い手の確保・育成に取り組んでいきます。